

第3回桑名市ブランド推進委員会

日時：平成26年11月5日（水）午後1時

場所：城東地区複合施設はまぐりプラザ 会議室

－ 会 議 次 第 －

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 議事

（1）ロゴマークの使い方・活用について

（2）今後の取り組みについて（事務局説明）

4. その他

事務局からの連絡

・次回（第4回）会議の日程について

平成 年 月 日（ ） 時から

5. 閉 会

○ブランド推進課 それでは定刻となりましたので、ただいまから第3回桑名市ブランド推進委員会を開催させていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日の委員会の出席者は、委員4名、専門委員3名であります。ブランド推進委員会条例第6条第2項の規定により、会議の開催要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

なお、本日はクリス・グレン委員が所用のため欠席でございます。

それと、この本日の会議は公開でございます。メディア等の撮影についても許可をいたしておりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、以後の進行を議長の伊藤委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしく申し上げます。

○伊藤委員長 改めまして、こんにちは。早いものでもう第3回目を迎えるようになりました。市長の発案、音頭から、今年からブランド推進ということで取り組んでおります。桑名市のいろんな資源がつながっていく、そして人がつながっていく、もっと言うならば、市内の部局がつながって、オール桑名で一つのブランドがつくれればいいなと思いますので、2時間という短い時間ですが、有意義な議論等をしたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

初めに、市長の挨拶をよろしくお願いたします。

○市長 改めまして、どうも皆さん、こんにちは。桑名市の伊藤徳宇です。今日はご多忙の中、第3回のブランド推進委員会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

今日は3回目ということで、初回は六華苑、2回目はなばなの里で開催をさせていただきました。今回は赤須賀漁港のはまぐりプラザで開催とさせていただいております。

はまぐりプラザは年間5万1,659人が利用されておまして、そのうち観光目的で4万3,367の方が来場されているという施設でございます。そのほとんどの方が2階のはまかせ食堂のハマグリ料理を食べていただいております。リーズナブルにハマグリを召し上がっていただけるというところで人気でございます。

これまでは会議室でないところで議論をしてきたわけですが、今日は落ちついて会議を進めようということで、会議室で開催をさせていただきます。

前回は、桑名にとって魅力的なプロジェクトは何かということにつきまして、委員の

皆さんがそれぞれ専門とするところの視点からご意見をいただけてきました。歴史、文化、食、観光、都市デザインなど、広範囲にわたり様々な角度からご意見やアイデアを頂戴しております。

本日は、これまでの委員会での議論を踏まえまして、話題となった項目ごとに具体化するとなると、どういった取り組み案になるのかということにつきまして、事務局から取り組み案を出させていただこうと思っています。この取り組み案をもとにご意見を賜りながら、具体的なリーディングプロジェクトを定めていきたいと考えております。

今後は、このプロジェクトが実践的なブランド展開につながっていくというイメージでおります。限られた時間でありますけれども、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○伊藤委員長 ありがとうございました。(拍手)

続きまして、本日から桑名商工会議所会頭の横井委員に初めて出席していただいておりますので、ご挨拶いただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

○横井委員 本日、初めて出席させていただいております。商工会議所の横井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

1回目、2回目と議事録を拝見させていただきました。非常に活発なご意見等を拝見させていただいて、感心いたしている次第でございます。最年長でございますのでついていけるかどうかわかりませんが、足手まといにならないように努めさせていただきますので、よろしくどうぞお願いします。(拍手)

○伊藤委員長 ありがとうございました。

それでは改めて、本日の議題に入っていきたいと思いますが、大きな今回のテーマとしては二つあります。一つ、前半としては、ロゴマークの使い方ないしは活用の仕方というのを議論していこうと。二つ目としては、今まで1回目、2回目に出てきましたアイデアをプロジェクトとして来年度以降進めていく、その行き方、また組織のあり方、その担当者、そういった細部のところも決めていければなと思っています。

まず、第一議案としてのロゴマークの使い方、活用について、事務局のほうから公募が行われていて、その状況などを説明いただければと思います。よろしくお願いいたします。

○ブランド推進課 まずロゴマークの公募状況について申し上げます。

先月にロゴマークの申し込みを締め切っております。現在、応募作品を整理いたして

おり、選考の準備をいたしております。作品は、北は北海道から南は沖縄まで全国から約200件の応募がございました。応募者の年齢構成では、年少では10歳から年長では79歳の方までと、幅広い方から応募をいただいております。このロゴマークの発表につきましては、12月6日開催の新市10周年の記念式典で発表したいと考えておりまして、今現在、その準備中であるというところでございます。

状況としましては以上でございます。

○伊藤委員長 ありがとうございます。公募ということで、どんなのが出てくるかはわからないという状況はありますが、もともとの桑名の市章があるようにマークというのはあると思うんです。テーマカラーというと、皆さん、ぱっと思いの何となく水色という色だったり、それでいいのかどうか、次のブランドとしてのロゴマークのデザインというのは、どんなことが、どんなデザインだったほうがいいのか、そういった理想形を少しご意見いただければなと思うのですが、いかがでしょう。

例えば私が思うに、何か今までのイメージをやはり刷新して、新しい桑名が生まれてきて、そしてブランドとしてやっていくんだという意気込みから考えていくと、やはり何か今までは違うような形というのはあるのかなと。それは一つの先鋭的な形であったり、もしかしてブランドというものを1回目、2回目の意見の中から、世界に対しても評価されたい、各世代にも認知されたい、こんなことを思うと、世界標準で認知されるようなデザインの先鋭性、格好よさといったようなものが必要かなと思ったりもするのですが、皆さんの忌憚のないご意見いただければと思います。佐藤委員、どうですか。

○佐藤委員 何も候補を見ない中の発言は難しいんですけど、今、伊藤さんがおっしゃったように、世界、ユニバーサルデザインというか、そういうものというのはやっぱり絶対かなというふうには思いますし、さっき市長も言っていたんですけど、何か特定のものみたいなものじゃないほうが、やっぱり伝えたいことがまずあって、それに沿ったデザインになるということが理想かなと思うので、何か一つのものに絞るとかというよりは、もうちょっと広いイメージにしておきたいものと、そのロゴと一緒に市役所の中だったりとかというところで、どういうまちにしたいのかとか、本物という話があったりしますけども、そこに向かって、じゃあどういふのかをきちっと決めていかないと、今後、せっかくできて使にくいものになってしまうのかなと。使ってほしいので、市役所の職員の皆さんの名刺の中に入れてたりとか、いろんなところに出ていくものだと思うので、その思いの部分と直結してデザインの力というところで、みんながその

ロゴを見てそうだよねというふうに、一丸となれるようなものというのがベストかなというふうに思っています。

○伊藤委員長　　使い方というところが重要だと思うので、これは専門家でもあります黒田先生からもロゴマークの使い方の事例とかご説明いただけると。

○黒田委員　　私が所属している会社でかかわった事例とか、愛知県でいろんな大型のプロジェクトがあった場合に、必ずシンボルマークがつけられるんですけど、それで選ばれたものの資料を少し持ってまいりました。まずやっぱり、そのシンボルマークで何を伝えたいのかということですね。何を皆さんにイメージしてほしいかというのが最も重要なところで、ご存じの方も多いと思うんですけど、COP10という2016年に国際会議がありまして、既に正式なマークはほかにあるんですが、より市民に知ってもらうためのいわゆる誘致マークみたいなものなんです。これもある程度人数を絞った中のプロのデザイナーでの公募で選ばれて、生物多様性というテーマの会議なので、生物のイメージとか環境を大切にすイメージとか、どうしても色にせよ、形にせよ、そのような何かオーガニックなイメージも取り込んだものが選ばれて、こういうものは一つ基本のマークをつくった後に、いろんなところでキャンペーンで展開するというところがありますので、さまざまな使い方、例えばメーンの国際会議のほかに併催のイベントとか、あるいはこれにパートナーシップ事業といって、関連事業とか連携事業を募るといったのがありますので、その際にいろいろそういうフレーズがどんどん入れられるような形というのを想定して、一つのひな形をつくるんです。使われ方としては、例えばこういう使い方はだめです、正しい使い方のマニュアルというのができていくんですけど、やっぱり一つつくって、それがどんなシチュエーションで、そんな場面でどう使っていきたいかというのをおわせて考えていかないと、なかなか一つだけそのマークだけを単独で見るとは、いろんな場面を想定し、バランスがいいものとか、使いやすいものを考える必要があると思います。

これも近々に行われるESDというユネスコの関連の会議なんですけれども、これもデザイナーの公募で選ばれて、これはちょっと会議の内容がやっぱり専門的過ぎて、言葉だけではわかりにくいんですけど、やはりなぜか持続可能な開発のための教育プログラムに関する会議なんです。そうした少しCOP10ともつながるような要素を持っていながら、より親しみやすいというか、何かいろんな人のイメージを想起しやすいようなマークと、ここに名称とか略称みたいなものが入るといったパターンが多いですけど、

色とマークの形というかシルエットと、そこにいろいろ盛り込まれてくるスローガンなりキャッチフレーズの組み合わせというのが、通常こういうものをつくる場合に基本要素として考えるものなので、まずは何をこれで伝えられるかというところが、一番伝えたいコンセプトにこの形であり色というのが適しているのかというところは大事な要素だと思います。ちょっと回して見ていただければ。

もう一つ、これはアートのほうの国際イベントなんですけど、あいちトリエンナーレという3年に1回の芸術祭。これは、この矢印のシンボルマークというのがすごく象徴として出てきたんです。これが第1回で、色もこういうピンクでした。2回目のときは、この矢印の要素も生かしながら、今度は色をシアンブルーというか、ブルーということに、非常にシンプルな色というか、単純な色というのは、あまり複雑じゃないんですけど強い訴求力で、誰が見てもわかりやすい、覚えやすいみたいなものをベースにしながら、さまざまにこれをまたどんなふうに使っていくかというプランを相当細かく詰める。例えば基本がありまして、それが町なかにかこうしたフラッグになったりとかサインになったりとか展開をされるので、多分デザイナーの場合は基本を決めながら、いろんな使われ方も想定しながら、最終的に一番落としどころのいい形にしていくと。

今回の場合は本当に一般からの公募で、プロの方もいらっしゃる、全くの素人の方もいらっしゃるんですけど、公募されたものがそのまますぐに使われる形かどうかというのは少し検討の余地はあると思うんです。もう少しそれをやはり修正しながら、最終的に完成形に持っていかないといけないような気がします。

なかなかこういうものは、決めるのも選ぶのも難しいところあるんです。プランだけぽっと見たときに、何となくこれおもしろいんだけど、今後の使われ方をいろいろ想像しながら選んでいかないと、選んだはいいけれど、実際いろんなものに入れてみたらとても使いづらいというパターンもあります。すごく小さな扱いで、例えばよく一般的に多いのは名刺に入れたりします。名刺に入れるときの大きさの問題とか、市民性の問題とか、あといろんな問題とかありますので、特にイベントなんか、こういう物販にも最終的には反映されるし、チケットなんかにも使ったりもするんですね。

○伊藤委員長 このあたりが、規定がないんですね。

○黒田委員 これ、いろんなパターンがあるんですよ。この矢印が結構自由にいろんな形に動くという、そういうフレキシブルな意味性も持たせている。

○伊藤委員長 どこまでルール化するというのも重要ですね。

- 黒田委員 そうですね。
- 伊藤委員長 矢印は使うけど、角度は自由だとか。
- 黒田委員 そうですね。色はもうこの色という指定もあります。色の展開をいっぱい持たせる場合もありますし、この色のみというふうに限定する場合もあります。
- 伊藤委員長 モノクロの場合の使い方が。
- 黒田委員 大抵カラーと、やっぱり白黒で使うパターンというのは、まず基本的には重視されます。
- 伊藤委員長 今のお話を受けて、公募で選ぶときも単純にロゴマークの格好いい、格好悪いだとか、桑名らしいだけではなくて、使われ方の展開のイメージだとか、色の話だとかというのでも連動して考えなくてはいけないなということが、今、見てとれるんですが、そういったものを受けながら、忌憚ないご意見をいただければと思います。
- 風間委員 これまでの会議を通して、桑名のイメージとしては、変化するというようなことなのか、あるいは固定されたイメージということなのかというと、どちらのほうも桑名により近いのかなというのが聞いてみたかったです。理由としましては、今、ちょうどロゴのデザインの話でしたが、デザインの意味というのは、サインをもとに受け取る側が何かしら享受できなければそれはデザインではないんですね。サインではなくて、“デ”というのが前に出るという意味ですけれども、なので桑名が前に出ていくときのイメージとして、どういうところを示したいのかというのが大事だなと思っていて、ちょうど今、サンプルに出されたロゴが、片方は固定のイメージのロゴで、片方は動的な変化を含んだイメージだったので、どちらが桑名らしいのかなということを、まずはざっくばらんにお聞きできたらなと思いました。
- 伊藤委員長 もともとある桑名の具象的なイメージと、黒田委員から出てきたものはかなり抽象的なイメージだと思うので、そういった抽象的なロゴマークをつくることによって、いろんなイメージの広がりがあるような感じでとか、ハマグリだとかいろんなもともとあるような桑名の具象というイメージを押ししていくべきなのかという受け取り方でいいですか。
- 風間委員 そうですね。皆さんにとって、多分受け取りやすいようにふわっとした、今、質問を投げかけたので、伊藤さんのご意見はすごくわかりやすかったです。
- 伊藤委員長 その辺で具象的か抽象的かという感じで聞けるといいですが、諸戸委員。

○諸戸副委員長　　やっぱりまちですとか、そういったものというのは、住んでる中の何かスタイルですとか、環境ですとか、そういったことに応じて常に変化していく部分と、やっぱり変化していかない部分と両方あると思うので、私はどっちかという、やっぱり大事なものは残しながら、変化し続けてるよというメッセージを伝えられる方法がいいのではないかなというふうには思うんです。

○伊藤委員長　　そうですね。デザインに対しては、何かイメージが育まれて、そう言っても、抽象的に何か示せるような感じのほうがいいのかもしれないですね。特に、先ほど風間委員からデが接頭語で前にとという話ですが、サイン、意味は兆しという意味がありますから、まさに未来に対する兆しを暗示するようなイメージのほうがいいのかと。安藤委員、どうですか。

○安藤委員　　私には専門外なので非常に難しい。素人意見として申し上げますと、いつまでも長く使えてわかりやすいというものが一番大切じゃないかなと。一回きりの会議のための、お祭りのためのそういうロゴじゃなくて、桑名として長くずっと使っていけるロゴで、ぱっと見たらこれは桑名の何かやられているあれなんだということがわかるように、素人としてわかりやすいものが一番いいのかと。未来に向かって桑名が発展していくんだという意気込みが感じられるようなロゴマークができればいいなと思います。

○伊藤委員長　　確かに何かはやりに乗ってしまってきて、すぐ陳腐化したら意味がないと思うので、確かにやり廃りのない持続できるようなロゴマークが必要だなと。こんな感じで進んでいくんですが、横井委員いかがでしょうか。

○横井委員　　私も初めて皆さんの意見を聞かせていただいた中で、ちょっと懸念している部分があるんですけども、タイムリミットが決まっているわけですね、発表される日時が。今、お話のあったように、伝えたいコンセプトは何なんだというところが、この中で明確になされていない中で、ロゴマークだけできて、そのコンセプトと若干相違があるケースもあるんじゃないかと思うので、その辺どうかなという懸念します。それを回避するためには、できるだけ抽象的なマークのほうがいいのかと感じました。

○伊藤委員長　　おっしゃるとおりで、まさにブランド推進委員会何をやるんだというところから決めながら今年度走ってるんで、ブランドとしてのコンセプトのほうを決めながら、展開していくというのは一般的なセオリーではあるとは思いますが、とにかく市長の思いとともに走ってしまおうみたいなのが、ある意味、桑名のよさでもあると捉えるならば、未来に向かって走り続けられるような抽象的な、先鋭的なロゴマー

クがあるといいのかなと、今の横井委員の話を聞きながら思う次第です。こんな意見が出ておりますが、市長からの思いは。

○市長 さっき諸戸副委員長がおっしゃっていたことに私も近いなと思っているんですけど、確かに変えていくという気持ちは伝えたいんですけど、人が暮らしている町のマークですので、変え過ぎるのもどうなのかなというのは恐らくあると思うんです。トリエンナーレのようにアートの方で社会にみたいなのだと、恐らく非常に斬新なデザインで、例えばショッキングピンクでどんみたいなのもいいと思うんですけども、恐らくそういうものにしてしまうと、混乱してしまう方々も、ここで長く暮らしている方であったりとか、そういう部分もあるので、確かにすごく前に行くぞという感じは出したいんですけども、あまり前に押し出すというのも難しいのかなと思ったりもします。それからもう一つは、よく自治体にはもう既にロゴマークというものがあまして、大体日本中どこのものもよく似てくるんです。カラーはやはり水色と緑と、川と歴史と文化がとかいって大体みんな同じことを言いますので、そういうのにとらわれない中で、桑名らしいものは何なんだろうというのをうまく抽出をしていただけるとうれしいというふうに思っています。

具体的なもので、これが桑名だよと言われても、恐らくそうじゃないよねというのが結構出てくると思うんです。やはり石取祭が桑名だよねと言われると、違うよというのも出てくるでしょうし、ハマグリが桑名だよねと言われると、多分、違うんじゃないのかなという。イルミネーションが桑名という方もおられるかもしれません。いろんな方がおられますから、やっぱりそれは具体ではなくて、何か桑名ってどういうところなんだろうというのをうまく抽出をできたようなロゴにさせていただけると非常にありがたいなど。何かちょっとまとまっていませんけど、そんなような思いを持っています。

○伊藤委員長 何せ選定する権限が我々委員会にはありませんから、勝手好き放題に言うんですけど、確かに生活の中で息づいていくとか、桑名の要素が抽出されてくる、凝縮しているのが一番でないかなとふうに思います。

○諸戸副委員長 難しいですよ。人間の持っている根源的なところに行けばいくほど、みんな似たようなことになってしまうので、そこは抑えつつもちょっとぐらい新しさをどこかに入れないと、桑名らしいロゴにならないというか、どこの自治体も似たようなカラーで、市長がおっしゃったような色遣いになっていってしまうと思います。

○伊藤委員長 できればある程度斬新な色にもしたほうがいいんじゃないかと思った

り、まちの中でやっぱり変わっていく様相なんかが見えてくるといいと思うんですけど、具体的な活用イメージをいただけたらいいなと思うんですが、一般的な、さっき黒田委員からあったみたいに、バナー広告だとか、チラシ、パンフレットだとか、こういったところが一般的ではあります。あとは職員の名刺だとか、それ以外にも何か桑名だからこそこういうところに打ち出していこうよとか、こんな展開ができればいいとかいうご意見をいただきます。

○黒田委員 後で2番目の議題でいろいろ実際に展開していくプロジェクトというのが出てくると思うんですけど、恐らくもともと本物力という言葉がキーワードなので、その本物力をやっぱり皆さんに広く知っていただくための、例えば食の場面であれば、いろんな飲食店の店舗でも一つのステッカーのようなものとかで、いろんな人の目に触れやすい場所に展開していくという必要が出てくると思うんです。もともとやっぱりこの本物力というところにすごくヒントがあるような気がして、奇抜なものというよりも、すごく歴史があって積み重ねてきたものの、さらにそこからまた新しい可能性を見ていくみたいなことだと思うので、安易にすごく上質なとか、落ちついたものの中に、でもそれだけではないとか、何か非常に抽象的ですけど、非常に潜在力を秘めたようなものにもしできれば理想的だなとは思うんですけども、今回の公募で、やっぱり本物力こそ桑名力ということ、皆さんそれぞれに本物ということ、イメージしながら多分デザインされていると思うので、じゃあみんなが考える本物、桑名の市民の皆さんが考える本物とか、外から見たときの本物みたいなのを、ちょっと具体的に何か本物が発揮できる場面とか、そういうことをイメージ、だからそういうことにできるだけ露出させていくということをしたらいんじゃないかなと思います。

○伊藤委員長 そうですね。確かに、まちなかのお店だとかわかりやすいところに、市民の皆さんが触れやすいところに出ていくと愛着もわいてきますし。

○黒田委員 やっぱり一番最初に目につきやすいですし、よくイベントなんかで、今、ご当地のいろんなグルメはすごくアピールするので、名古屋の場合でもなごやめし博覧会みたいなキャンペーンをしながら、ある期間、名古屋のあるものを、ローカルフードをアピールするというイベントをやるんですけど、やっぱりそういうところが一番いろんな人のまず最初の取っかかりとして効果的なので、あとは商品もあると思うんです。特産品、お土産物というところにできるだけ使っていただけるものを。

○伊藤委員長 食べるだとかお土産物というのは、圧倒的に人の目に触れる機会があ

と思うので、積極的に要は活用してもらわないと意味がない。ほかにもどうですか。博物館とか図書館とか、何かいろんな施設にも、基本、どこにあってもいいんじゃないか。それだと確かにあんまり奇抜でもいけないような気もしますし。使われ方と色のイメージだけご意見があれば。

○諸戸副委員長 結構難しいと思います。逆に、本物力ということをやっているがゆえに、それがあることによって本物だということを逆に認定してしまうところもあるんだと思うんです。

○伊藤委員長 認定マークみたいな。

○諸戸副委員長 はい。というふうなものにしていくのか、それともそうではないものにしていくのかは、どこかではっきりしていっておかないと、逆につけたくない人が出てきてしまう可能性があると思うんです。

○伊藤委員長 ということは、ロゴマークを使うための使用書みたいな何かルールというような。

○諸戸副委員長 ガイドラインも必要だと思いますし、いろいろなバリエーションもしあるのであれば、そこにある程度セグメント分けをするのか、それともそういうことは一切しないで、一つのロゴマークを共有していくのか、その場合は使い方に気をつけないと、中途半端なものができちゃうような気がしているので。

○伊藤委員長 先ほどゆるキャラの話が出てきましたけど、くまモンなんかは逆に著作権フリーにしていることでどんどん使われて、誰でも使われていますし、あんまり制限をかけてしまうと、今度使われなくなって宝の持ち腐れになってしまうという可能性もありますし、その辺の線引きというのが非常に難しいとは感じます。ただ、使われていったほうがいいという判断のほうではないか。

○諸戸副委員長 つくる以上は使われないと意味がない。どう使ってもらおうかというところですね。

○伊藤委員長 私も今、副委員長の話を聞いて、確かに本物力と、いわゆる三重県のほうが名産品として認定しているのと同じように、何か本物品ということで、本物力として認めましたというふうにも思われるとかというのをちょっと改めて気づいたんですけど、それはそれでいいような気もするし、ほかのご意見もあれば。

○横井委員 今回の諸戸さんのご意見、私もそう思ったんですけど、本物というものの規定とガイドラインですか、じゃあ何が本物なんだというところを捉えると、じゃあそ

れに本物を使っていいのというような誤解が生じることもまずいでしょうし、あまりそれに無理をしてしまうと使い勝手も悪くて、結構限られたものになる。でもそれはそれでブランドとしてのハイエンドのブランドイメージとしては限られたところに使うというのもある意味ありなのかなとは思いますが、何か難しいですよ。

もう一点は、ロゴマーク、先ほど市長さんおっしゃられましたように、現在もあるわけですよ。それとの使い分けをどういうふうにして説明していくのか。もう一点に集中してしまうのか、別々に、それはそれで使うんだとか、その辺のところをどうされるのかなど。一つに絞り込むということになると、なかなかそれは歴史的な背景もありますから難しいとは思いますが、あまり多くあり過ぎても、薄れていくばかりなんじゃないかなとも思います。

○伊藤委員長　　確かに使い方は非常に難しいなと思いますが、そんな中どうですか。専門委員のお二人からないですか。

○佐藤委員　　本物認定の話は、前回、その本物という話を聞いたときに、何か自分の中ではそれ認定みたいなイメージが何となくあったんです。使い方だと思うんですけど、そういうふうにするロゴ。でも今回、ロゴって、それ用というか、別に桑名のという話だと思うので、またちょっともしかしたら別なのかもしれないですが。さっきからずっと考えていたのが、前回の会議でもちょっと例に出したと思いますが、隠岐の島の海士町の中ノ島という島の漁港の自治体で、そこは「ないものはない」という言葉がスローガンみたいになっていて、その言葉がロゴマークみたいになっていて、港におり立つと、「ないものはない」とかかわいい感じで書いたロゴ化されているものが、町の至るところに張ってあります。それはみんながその言葉をやっぱり愛してというか、何かそうだよというふうに思っていて、いろんな場所にそれがあることで、すごく島全体の連携というか、何かそういうイメージの統一みたいなものが図られているようなところがあって、何かそういうふうな使い方というのもあるだろうし、町に点在しているいろんなスポットをつなぐものとして、そのロゴを使うという話もそうですし、どういうふうにするかという次第だと思うんですけど、認定は認定でまた別の話なのかもしれないなと思います。

○伊藤委員長　　ちょっとここで整理したいなと思うのは、あくまでもロゴマークですから、もしかしたら、見る人から見ると、本物力と書いてあって認定されたようなものに見えるかもしれないけど、そう見えないようなデザインにすべきかと思ったり、ロゴ

マークとして、認定書ではないという方向ではないと広がっていかないとと思うので、その辺はちょっと選定をしてもらうときにも注意をいただければいいのかなと。

○佐藤委員 そのロゴにその「本物力こそ、桑名力。」という言葉が一緒になって。

○伊藤委員長 今回の応募の状況だと、事務局サイド側ではそれで正しいですか。

○ブランド推進課 いろいろなパターンが出てきていますけれども、今回は「本物力こそ、桑名力。」というキャッチコピーを売っています。

○風間委員 私の仕事というのが、比較的環境のことが多いんです。やっぱり大きく見てしまうと、いろんな人たちが要はステークホルダーという、みんながかかわることというのが環境のことなので、ここにいるよねというこの地球みたいなのがでか過ぎて、みんながイメージしにくいんです。環境でよくあることというのが、要は参画性をどう高めるかという話がいつも出てくるんです。みんな大事に思っているんだけど、どう大事にできるかといったときに、結局自分事というんですけど、自分のことと思わないと、誰かが決めた何かをやらなきゃいけないとか、そういうものなんだみたいになってしまいがちなので、よく環境の中であるのは宣言というのがあるんです。私、今、佐藤さんがおっしゃっていた、認定というのは誰かが認めるということですよ。それがもし、今回、マークと認定は違うよねという話だとすると、私が「本物力、こそ桑名力。」のフレーズは、桑名に住んでいる人なのか、桑名が好きな人なのか、要は本物にしていきたいという気持ちがすごく入っているのかなというのをやっぱり聞くたびに思うので、自分たちの本物の定義を話すと、みんなが考える桑名の本物を自分たちもつくっていききたい、本物にしていきたいという宣言的要素が何かしらエンゲージ、つながりとか結びつきにくっつけられるならすごくいいのかなと思ったので、まとめると、マークとキャッチコピーが一体化するときに、どう使われるかといったときには、自分が本物にどうコミットする、自分の本物にしていきたいとか、本物だと思ってほしいという気持ちが、その人も乗れるものだったら使っていいよぐらいの緩やかなものだと、みんなが使いたくなるんじゃないかな。今はまだ桑名の長い歴史からすると、例えば商売始めた人でも、まだ1年ですとかまだ3年目ですとか、でも桑名の本物になりたい、長く愛されたいという人が本物をつけてもすごくいいんじゃないかなと私は感じました。

○伊藤委員長 何かわかりやすい。ありがとうございます。

○佐藤委員 話を聞いていて、何か本物力は桑名力みたいなのがあって、私は今の話と、この「私は、何とか力です」みたいな、何か空欄があって、私は「何とか力」み

たいなふうに、例えばお店とかでも何でもいいと思うんですけど、「何とか力」で私は応援というか、こんな能力を持っていますというか、何かそういうふうにみんな参加型でそこを書き込めるみたいな、何かそういう伝播の仕方とかもあるのかなと思いました。

○伊藤委員長　この目標としては、私の中の何とか力、本物力って何、みたいなのを展開していくとかいうのが、風間委員が言われる本物かどうかよりも、みんなでまちが本物になりたいというその気持ちがまさにデザインを前に押し上げる兆しをつくっていく機運を高めるという意味でいいのかなと思います。そうすると認定でもなく、現在進行形であれば、本物になりたい人たち、になりたい商品が、そうやって桑名のまち自体も本物になりたいと。本物は何かといったときに、それぞれの〇〇というのを考えながら参加していこう、ないしは使うための展開をしていこう、そんな形で我々委員会としての意見としては集約という形にさせていただいてもよろしいでしょうか。

○黒田委員　一つは誇りというか、自分はやっぱり本物の力を持っているという、自分たちの誇りに思うものを出していくパターンもあるし、こうなりたいという理想形も両面ある意味ではすごくいいんじゃないでしょうか。

○伊藤委員長　固定化されないということなんですよね。私も本物力に参加して磨きますと。

○黒田委員　本物力と思う方は手を挙げてくださいみたいなことで、仕掛けるというのがありますよね。これから何かそれこそ皆さんが思う本物力をいろんなものを出していただくとか、今度はそういう何か参加型にしても。

○諸戸副委員長　自己推薦文みたいなもので、自分たちはこうなりたいというのを挙げて、それを逆にホームページみたいなもので公開してあげて、このお店の取り組みはこういうことをやっているというのを市からも発信できるような仕組みと、それとセットのロゴマークであればすばらしい。

○佐藤委員　あとガイドブックとかもすごいイメージ湧きますよね。桑名力だよ、みたいな、何かすごくそれは。

○伊藤委員長　安藤委員いかがですか。

○安藤委員　今の最終的なご意見は非常にわかりやすく、じゃあそのロゴだとかそういう何とか力という何々は自分で勝手に決めて勝手に使えるので、非常に取り組みやすい、だからそういう意味では非常にいいんじゃないですか。

○伊藤委員長　横井委員。

○横井委員 感銘しました。自己推薦型というのをおっしゃられましたよね。企業や個人の中で、自分なりの本物を目指しているんだ、あるいはもうかなりたどり着いているんだと、それぞれ温度差もあるし、社会が認めている要素もそれぞれ違うのですけども、そこへたどり着こうとするコアな部分は1個なんですよというほうがわかりやすくいいんじゃないかと思いますが。

○伊藤委員長 市長は。

○市長 いや、もう皆さんの今の意見に大賛同させてもらって。ガイドラインだけつくって、犯罪とかそういうふうな方向に悪用するのがおるわけですよね、おれは本物を目指してみたいな、そうならないようなのだけルール化していただきながら、恐らくそれぞれの考える本物をそれぞれがみんな追求していく町が桑名であり、それが桑名の力であるという形に持っていくのがすごくいいことなのかなというふうに思います。

○伊藤委員長 そんなことを考えると、みんなで色をつけるテーマカラーのような、何か本当に七つの色がそろって出るといいのかなと、今、聞きながら思ったんですけど、逆にピンクだとか、ないしは今あるような水色とかブルー系にしてしまうととなると、何かあれば違う反対の色もあったり、一つの意見に対して多様な意見もあると思うので、であればもう七色入れてしまえと。みんなで本物力を輝かせる手もあるのかなと、聞きながら思いました。そんなことで一つ集約に至ったので、この第一議題はロゴマークの使い方ということは、これで終わりにさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

第1回目、第2回目のいろんなアイデアを一度素案として事務局のほうでまとめさせていただきます。お手元のほうに資料も届いておるとは思います、ご紹介は、事務局の案として事務局のほうから説明させていただきますので、よろしくお願ひします。

○ブランド推進課 ブランド推進課主幹の川地でございます。よろしくお願ひいたします。

まず最初にご説明をこれからさせていただきますが、名称、その他全て仮称というふうにまずご理解いただきたいということと、あと今後、予算の議論等を進めてまいりますので、あくまでも本日は皆様の裏づけがあるものでは決してないものであるということ、今後、皆様のご意見、今回はあくまでも皆様のご意見をまとめた形で話を進めていただきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

今日、たった今、デザインというお話、ロゴマークのお話がございます、実は今か

ら説明することと、うまくリンクするかどうかはちょっと自信はございませんが、きょう、昨日までの案の中でご説明を進めたいと思っています。

まず今回、この資料でございますけれども、本年度、来年度、再来年度ぐらいにかけての展開について、これまで2回の実行委員会及び7月28日に開催されましたキックオフイベント、こちらのほうの各委員の皆様、本部の方のご発言をもとにまとめさせていただきます。この後、リーディングプロジェクトということで、先ほど、伊藤委員長のほうからも、どういうプロジェクトに取り組んでいくのかというお話があったかと思いますが、今回は桑名本物プロジェクトという名称をつけさせていただきましてご説明させていただきます。

また、先回、風間委員のほうからは、どんなアイデア、どんなことを一押しでやっていくのかというところを皆さんに意見を聞きたい、委員の皆さんに聞きたいというお話が多分あったかと思います。そういった意見も踏まえまして、できましたら、この後、説明いたします各プロジェクトのご担当といたしますか、こちらのほうではスーパーバイズという表現をさせていただいておりますが、監修のような形でのかわりを深めていただければいいのかなというふうに考えております。

また、今回、横井委員にもご参画いただいておりますが、横井委員、風間委員、佐藤委員の人づくり部会のほうでございますけれども、こちらのほうも行く行くは桑名を研究するような、Kラボという表現を使わせていただいておりますが、そういった人づくりの一つの機能を持たせた何かというものをつくっていったらなと思ひまして、Kラボ運営委員会というような形に持っていったらなというふうに考えております。

また、デザイン性の話、今のロゴマークもデザインというところが中心に出てきておりましたけれども、やはりこのデザイン力を高めていく、そういったものの形で、伊藤委員長のほうからもデザインラボのようなものをつくってはいかがかというようなご提案をいただいておりますので、それもあわせてKデザインラボということで進めていったらなというふうに考えております。これまでのご議論、1回、2回、キックオフイベントを含めまして、おおむね四つのカテゴリーに分けられるのかなというふうに考えております。そのカテゴリーごとにプロジェクトをつくっていく、そんなようなイメージで考えておひまして、四つのカテゴリーといたしますのは、一つ目が都市デザイン、いわゆるデザインという要素と都市のデザイン、さらに大きく広げた都市デザイン、もう一つは食、もう一つは歴史文化、あともう一つは観光という形で、この四つが大きく分け

られるのかなというふうに考えております。特に都市デザイン、デザインというところでは、少しこれまでのご発言を振り返らせていただきますと、伊藤委員長のほうからは、ブランドとして何かデザインをそろえていくと、桑名というものはそろえてくるだけでもかなりよくなるのではないかとあったりとか、逆にキックオフイベントのときに、総合計画の西村座長のほうからも、デザイン性を高めていくかをみんなで考える必要性があるのではないかとというご発言をいただいております。

また、黒田委員からは、別途の機会のときに、デザイン力の向上というよりは、みんなで楽しむということが大事なんじゃないだろうか、そんなようなご意見をいただいております。そういったことも踏まえまして、桑名デザインエンジョイプロジェクトという形で、例えば先ほど佐藤委員のほうからもガイドブックをつくっていくというようなお話があったと思うんですが、そういったものを一緒につくっていくような形をとれるようなプロジェクトにしていけたらなというふうに考えております。

続いて、食に関するところでございますが、食という部分なんですけども、食と歴史文化というところですが、実は太田顧問のほうから、キックオフイベントのときに、東京の地方の条件なんかは実は変わらないんだよと。シンボルをPRする必要があって、桑名のシンボルをつくるのが大事なんじゃないか。つまり象徴的なものというものは、やはり設定されたほうがより伝わりやすいのではないかとというようなご意見をいただいております。そういった意味で、食の部分につきまして、特に太田顧問のほうからはすき焼き食うなら桑名へ行こうというようなご発言もあったわけですが、すき焼きの町なんかいいんじゃないかというようなご提案をいただいております。

また、安藤委員、黒田委員のほうからは、やはり食べ物というのは絶対興味を持つので、積極的にこれがかかわっていったほうがいいんじゃないか、そういうようなご意見もいただいております。一つの食として、桑名シンボルプロジェクトの一つとして、すき焼きシティー桑名プロジェクトというようなものを推進できないかなというふうに考えております。

また、歴史文化のほうにつきましては、諸戸委員のほうからも駅前旧東海道の整備、保存を考えたいとか、クリス委員は本日所用でご欠席でございますが、桑名城本丸御殿の再建というお話も出ておりました。そういった形で、桑名の象徴的な建物であるとか人物にフォーカスを当てたような形でのシンボルプロジェクトを推進できないかなということを考えております。

最後に、観光につきましては、黒田委員のほうから観光アプリの有効活用ということ
を積極的に考えてみてはいかがかというようなご提案をいただいております。こちらの
ほうは実は既に今週の日曜日になりますけれども、現代的なタブレット端末と桑名歴史
案内人の会の皆様と掛け合わせるような形で、マップ上に古い写真を置きまして、現在
の姿と比較しながら町歩きをしようというイベントを実証実験としてさせていただきま
すが、そういった新しい現代的な技術等を活用しながら、新しい桑名のコンシェルジュ
像をつくっていくとおもしろいのではないかとということで、桑名コンシェルジュプロジ
ェクトという形で上げさせていただいております。

今のこの4点につきましては、できましたら委員会主導型という形で、先ほど、最初
に申し上げたスーパーバイズとありますが、委員の皆様のアドバイスをいただきながら
お話を進めていくような形でやっていけないかなという形で、そこに市民の皆様、そし
て我々がかかわっていく、そのような形で進めていきたいと考えております。

また一方で、委員会主導型と言われながらも、ただいま自己推薦制とありますが、自
己推進型のロゴマークが今後でき上がっていくだろうということを考えますと、やはり
市民の皆様が発案されていくプロジェクトがあってもいいのではないかとこのように考
えております。そういった意味で、桑名本物プロジェクトというのは、委員会主導型の
部分と市民発案型の二つの日本柱で走っていくのがよろしいのかなという形でまとめさ
せていただいております。

さらに、これからのブランド推進の中で、今の市民発案型も全員参加の桑名ブランド
推進というふうに考えることができるかと思っておりますけれども、そういうプログラム、そ
ういった中で、伊藤委員長のほうから、第2回の委員会のために、いろんな資源という
のはあるんだけど、それを体系的に見せてあげることがすごく重要ではないかとい
うご発言をいただいております。そういったご発言であったりとか、佐藤委員のほうか
ら、すき焼きミーツザワールドのご紹介をいただきながら、ボランティアの方たちが物
すごく主導権を持った形で実施されているイベントというお話も伺っております。そう
いったツールがないだろうかとこのことを考えまして、実はこの目の前に流れておりま
す長良川の上流、岐阜市のほうで長良川おんぱくという取り組みが2010年から始ま
っております。この取り組みというのはどういう取り組みかといいますと、体験交流プ
ログラム、小さなものを2カ月程度の期間、集中的に実施する手法でございまして、本
日は長良川おんぱく2014のガイドブックをお手元にお渡しさせていただいております。

すけれども、こういった形のを再来年度実施に向けて検討してみたいかというご提案としてまとめさせていただいております。なお、本日、ただいまごらんいただいております長良川おんぱく、9ページだったと思いますが、13番のプログラムで、既に試行的に今週の日曜日、まさにここの場所、赤須賀漁港をテーマとしました焼きはまぐりランチと競り見学というプログラムをブランド室としても提供させていただいております。また、前日になりますけれども、桑名西高校の脇の竹林におかれまして開催されます桑名市竹の十三夜、こちらのほうも5回目となりますが、プログラムの一つとして提供させていただいていることを伝えさせていただきます。本年度は2プログラムに参加させていただいている長良川おんぱくでございますが、やはりこの事業自体もいろんな方々が主体的に参画される事業としてさせていただければと思いつつも、やはり運営サイドの長良川おんぱくを運営すること自体が非常に大変な労務となっておりまして。そういったノウハウというものを長良川おんぱくのほうからノウハウ移転を来年度は受けて、長良川おんぱくには来年度は桑名から10個ぐらい試行的にさらに参加させていただき、再来年度、ノウハウを移転を受けた後の28年度に桑名おんぱくを本格的に開催させていただければなということをご提案させていただきます。さらに、こういった全員参加型、先ほどの自己推薦制という意味もあるかと思いますが、いろんな方々がやはりこのブランド推進にかかわっていただく必要があるかなど。これまでの議論の中でもいろんなご意見がありました。市民の方がもちろん参加していただく。さらに言えば若い人材にとにかく参加してほしいというご意見もたくさん出ておりました。そういったことを考えますと、そういう市民の方、また外のご意見もしっかり取り入れていくのも大事じゃないか、そういうような意見もありましたので、そういった市民、市外の皆様も含めて参加できるようなツールを活用した全員参加型ブランド推進といったようなことも検討していきたいと考えておりますし、学生たちを中心とした若手人材が参加できるようなプログラムを活用したブランド推進、さらにこれまでたくさんのプロジェクトを少しお話をさせていただいたわけですが、やはりプロジェクトマネジメントというのは非常に重要な要素となっております。プロジェクトマネジメントの要素を学びの場として市として提供することが重要ではないだろうかということで、そういった学びの場の設定を検討していきたいというふうに考えております。

こういった市内を中心とした取り組みがあるわけですが、これはやはり外にしっかりと情報発信していく必要があるのかなというふうに考えております。これにつきまして

では、昨年度からですけれども、はまぐり大使を任命しております、今年度も10月16日に二代目はまぐり大使がCOWCOWさんに就任いただいておりますけれども、そういったはまぐり大使をしっかりと活用していただくたりとか、同じく10月16日に東京のほうで桑名人ネットワークパーティーを開かせていただきました。やはり首都圏で活躍されていらっしゃる桑名ゆかりの方々にもしっかりと応援していただきたいなということを考えておりますので、そういったネットワークの活用を全面的に考えていきたいなと思っております。

最後に、こういったもの、いろいろプロジェクト、コンテンツ、さまざまあるわけですが、やはりこれはマスコミの力をしっかりと活用していく必要があるのかなと考えております。桑名市の東京PR事務局をこの5月28日から開設しておりますが、これも来年度以降、引き続き設置させていただきながら、東京での情報発信、それが結果、全国ないしは全世界というような流れで桑名を発信していくという形を検討していけたらなと思っております。

まことに雑駁ではございますが、以上、このような形で皆様のご意見等をまとめさせていただきました。ありがとうございました。

○伊藤委員長 ありがとうございます。概観しますと、委員の皆さんのいろんな意見が一つの集約だったりしている案というような形は見受けられるんですが、一点少し気になったというか、初めて多分委員の皆さんが目にする言葉としては、桑名本物博覧会、桑名ほんぱくというふうにあります。これはちょっと唐突感もありますので、市長の発案だといううわさも聞いておりますので、ちょっと市長のほうから思いと意図をお話いただけると幸いです。

○市長 このおんぱくというのは、冊子のほうも配付をさせていただきますけれども、この体験プログラムをたくさん集めて、ある期間、みんなに長良川、岐阜市に来ていただくという仕組みを見たときに、これは、今、桑名でやろうとしていることと本当に近いなと思いました。

まず一つは、全員参加でというのは、私もずっといろんなことを言っておりますけれども、じゃあ具体的に何なんだといつも言われるんですが、これは何かおんぱくというスキームを使って、いろんな人が私の考える本物はこれだ、私の考える本物はこれだというふうにならんで持ち寄って、それに桑名の人だけじゃなくて、いろんな人に体験をしてもらって、本物だなと感じてもらえるというような、全員参加で桑名の本物力を外に

発信をしていくという、いい企画、取り組みになるんじゃないかなと思ったのが一つ。

それからもう一つは、本物という部分で、それについては先ほど話がありましたが、みんなそれぞれの本物というものを僕は追求すればいいというふうに思うんですけども、その本物をみんなでどんどんブラッシュアップしていく場所として、こういうおんぱくという仕組みを使ったらできるんじゃないかと思いました。

そして、おんぱくは温泉博覧会らしいんですけども、本物博覧会だろうと、そうなる。桑名の本物がいっぱい並んでいて、それを日本中の人みんな寄ってらっしゃい、見てらっしゃいと来てもらって、体験してもらって、ああ桑名は本物がいっぱいあるなど感じてもらえるような博覧会にすればいいんじゃないかというので、これはほんぱくだなということで、仮称桑名本物博覧会、ほんぱくという名前をつけました。来ていただいて、桑名の本物を体験してもらおうというようなことを最終的にしていくために、今、長良川おんぱくさんのほうに二つ参加させていただいて、来年、もう少し増やして、いろいろノウハウをいただきながら、桑名独自の取り組みとして、この後はやっていけたらいいなというふうに思っておるところです。

○伊藤委員長 ありがとうございます。先ほど、ロゴマークのお話の中で、本物というのをみんなで宣言しながら、新たに培っていく、成長させながら、そういったところの、みんな成長した一つのタウンで表現する場所、ないしはそれをいつやっていく、ないしは競い合わせて共有できるような場所を想像すればよろしいですか。

○市長 そうですね。

○伊藤委員長 わかりました。桑名ほんぱくに関してもですし、全体的なリーディングプロジェクトに対してざっくばらんに意見をいただければいいなと思います。冒頭でブランド推進委員会のほうの中で、Kデザインラボと書かれておりますが、デザインラボみたいなものが本来だと市内の中にあるといいなというのは私自身が強く感じております。各部局でいろんなイベントとかいろんな試みをされているのが、やはりばらばらのデザインで出てくるというのは、少し桑名市のブランドとしてはいかがなものかなと思って、少しデザインがそろっているとか、本当にちょっとのことで全然違う見え方になりますから、そんなアドバイスをするような機関があってもいいのかなと思います。いろんな市を見ていると、景観アドバイザーなんていうものというのは比較的導入されているんです。例えばこういったサインを街なかにつけまじょうだとか、建物の色をこういうふうにしまじょうといったときに、専門家が見て、それだったらもうちょっとサ

イズを下げたほうがいいんじゃないのとか、もうちょっと工夫するだけでよくなるよとか、ほんのちょっとしたアドバイスを受けるだけで景観自体もよくなる。これは、今回、ブランドということで景観だけじゃなくて、販促物だったりイベントだったりいろんなものがブランドだと位置づけておりますので、全部のデザインに対して少しだけアドバイスできるような機関があってもいいかなと思っております。

それ以外は、もう一度復唱させていただくと、都市デザインということで、桑名のデザインをエンジョイできるような、最終的には桑名のガイドブックなんかもつくるような、桑名の都市全体のデザインの形と。そして食に対してはすき焼きシティープロジェクト、歴史と文化ということで、桑名の象徴的な建物ないしは人物、こういったものをどんどん生かして使っていこうと。四つ目としては観光ということで、物があるだけではなかなか難しいので、コンシェルジュとしての、本来、人がおもてなしたり、サービスをするというのがもちろんベターなんですけど、人材のこととかも考えていくと、アプリケーションだとか、いろんな今の最先端のツールを使って展開するとどうなんだろうと。簡単に言うとその四つだったと思います。その辺を踏まえてご意見いただければなと思いますが、佐藤委員、どうですか。

○佐藤委員 ガイドブックとかも、もう市民編集部的な感じで、例えばこういうものとかをみんなで編集しちやおうみたいに巻き込むのもいいと思います。あとさっきおっしゃったデザインラボのことはすごくいいなと思っていて、例えば1人でもいいから、デザイナーの方がそこにおいて、市民の方が何かイベントをやりたいとか、何かつくりたいというときにアドバイスできるような体制があったりとか。もしかして今もあるかもしれないですけど、コピーがすごい安く使えるみたいなものがあるだけで全然違って、例えばそれで言うと、リソグラフというすごくかわいい感じに刷れる簡易の印刷機みたいなものがあるんですけど、それが結構東京だといろんな区とかがそういう機材を持っていて、すごく安いので、1枚数円、100枚刷って何十円とかそういう世界で、紙を持ち込めば刷れるというのがあって、結構どんなデザインでも印刷などで味がある感じに刷れるので、結構そこに市民の団体の方とかが持ち込んで、自分で刷ったりしているみたいなこともあって、そういう機材が使えたり、ソフトが使えたりみたいな部屋がそこにあって、市民の方がそこに入り出してアドバイスを受けることができるみたいなふうに、実際の場合として機能するとすごくいいのかなと思います。何かただバーチャルにあるんじゃなくて、できればそこにデザイナーの人がいて、ちゃんとアドバイスをして

くれるというふうに機能するとすごくいいし、またそこでいい出会いがありそうな気がして、例えばそれとにかく出ますかみたいな話があったり、ほんまに出たいねみたいな、目指してやろうかみたいな、何かそういうのもすごく始まりそうな気がしました。

そこで、例えばガイドブックを編集しようみたいなことになったら、そこに来ている人が、そこに自然にやっぱり参加するようになるとか、編集部的にそこがなくなっていかか、やっぱり何か一ついい場所がそこにあると、いろんな人が入ってきてというつながりができるのかなというふうに思いました。

○伊藤委員長　　そうですね。サロンのようなそういう何でも相談できて、行くと、デザインしてもあがっちゃうという、みんな使ってくれますもんね。やりたい人たちがみんなどんどんそこに行けば、人も集まってくる。

○佐藤委員　　そうですね。そこで情報収集できたりとか、そこでつくったパンフレットが置いてあったりとか、すごくいい場所になれば、また全然今までと違う人たちがそこに入ってくるという可能性が出てくるのかなと思います。

○伊藤委員長　　その人材の人件費と場所代どうするんだと考えて、ぜひともそういう場があったほうが、でないとなかなか形骸化してしまう可能性があります。

○風間委員　　そうですね。今年、かかわらせていただいているのに、京都の中に大学がいっぱいあるので、京都市がお金を一部負担して、学生だったり、あるいは京都の中小企業さんだったり、あるいは京都だけに限らず、神戸の企業さんだったりとか、いろんな人たちとビジネスの未来を考えるというようなイベントというか、そういう企画をやられているんですが、そこに桑名市さんに参加いただいているという関係で、要はいろんな方々と未来を考えるみたいなことをやっていたわけなんですけれども、実際にやってみると、とにかく大変だというのがまず実感としてありまして、何が大変かというと、結局、行政といってもいろんな部署がありますし、市がやります、京都市がやります、大学生とやりますといっても、みんなそれぞれ日常があるわけじゃないですか。日常の役割の中に、さらに何かのプロジェクトで一緒にやりましょうとなると、とにかくその調整、間に入って全体を見て、みんなにとっていいことを考えるという人がやっぱりすごく重要だなというのを改めて感じまして、今年、行政の取り組み、京都市さんですけど、その取り組みのいいなと思うところは、その中でやる気のある職員さんが、自分の時間でそういうプログラムに入っているんです。たまたまそれは30歳以下という制限をつけているんですけど、日常業務の外側だけれども、業務だけやっても見え

ない市民とか、一般の人の声というのを積極的に拾いに行って、それを自分の仕事に持ち帰るということです。今年はまだ7人なんですけれども、市民の方と触れ合っていたんです。6月から、そのプログラムは11月3日、つい最近で一回一つの期が終わったんですけど、やってみられていたその行政の方自身が、すごくいい機会だったということをおっしゃっていたんです。何がよかったかという、やっぱりみんなにとっていいことを考えているんだけど、みんなが同じ意見をするわけじゃないし、何か作りましょう、やりましょうといったときの、行政として普段やらない考え方というのをやりました。行政としてはみんなに広くとか、全員平等にとか、全体性をすごく考えるというのも、その間に入るという役割は、時にどちらかを優先しながら、でも全体のことを最終的に考えるという、いろんな仕組みをやらないとまとまらないということをおっしゃっていて、そういうことを今回のプログラムでは体験しましたということをおっしゃってたんですが、何かこの2015年にやってみたいと思う幾つもの新しいことというのは、多分うまくいくことも、なかなかうまくいかないこともきっとあるはずで、ただ一番大事なのは、それにかかわる人づくり部会とか、またネットワークの活用とか、コンシェルジュプロジェクト、いろいろあると思うんですけど、多分、こういうことをやると、市内の人だけじゃない人との触れ合いや、市内でも違う今までかかわったことのない人たちとの会話、いろんなものが起きると思うので、何かやっぱりそういうところを補足するというんですか、準備委員会ってありますけれども、やっぱりマネジメントというんでしょうか、一緒になって考えて悩んで、それを全体に反映するという機能はやっぱり絶対的に必要だなと思ったので、やっぱり長く続ける意思があるものに関しては、こういうものの重要性というものがあると。一回やって終わりとか、うまくいったとか、そうするのは多分まぐれでもできると思うんです。ちゃんと長く次につなげていこうということでやらないと、やっぱりどこかにほころびが出てくるかなと思って、何かすごくこの準備委員会とか、人にフォーカスしたもの、その内部と外部というところがすごくバランスがとれているんじゃないかなと感じました。

○伊藤委員長　　少し質問を兼ねてですけど、桑名だけじゃなくて、外からの人も入れたほうがいいという意味合いだったんですか。そういうわけではなく、内部だけでの話でも取捨選択しながら、そのときには意見を交わして、こういうことをやろうとしていたものが少しこっちに行ったりしてもいいんだよという、そういう話。

○風間委員　　そうですね。やっぱりベターなのは、外側の意見を常に置いておくとい

うのは、内側を見る上ですごく重要な機能だなと私は思うので、私、実際、東京に基本的に事務所があるんですけど、京都のプロジェクトなので、基本的に行ったり来たり入って行ったわけなんです。そういう京都の人たちだけではないという形がすごくやっぱりよかったですし、京都市長も来てくださっていたんですけど、その評価があったのは、京都だけじゃない神戸の人もいれば、東京からの人も来ているみたいな形で、いろんな意見というか、いろんな人たちが常にいる状態。たまに来て言うのはだれでもできると。だけどやっぱりそれが人数とかきつと人件費の関係もいろいろあると思いますので、理想的にはやっぱり外側の視点が常にある状態というのがいいかなと思いました。でも、それが最初から全てずっとというのは難しいことだと思いますので、それは今回のブランド会議のような形でももちろんいいのかなとは思いますが。

○伊藤委員長　　長く外の人たちの目を一つ使ってかかわってもらっていくと。そんな中で、うまくポジティブに捉えていって、新しい力に変えていく、そういう形。

○風間委員　　おっしゃるとおりだと思います。

○伊藤委員長　　ありがとうございます。もちろんそういうふうにしていかなくちゃ、桑名は本物力を磨いていけないので、ぜひともそういうアドバイスを聞きながら、いけばいいと思うんですが、どうでしょう、ほかにもいろんな視点から。

○黒田委員　　桑名の場合って、NPOみたいなところも結構幾つかあると思うんですけど、たまたま名古屋の場合は、私が今、いるところの同じビルに、NPOの支援センター、これはもちろん行政がやっているんです。NPOのいろんな方々がその場を活用して、一種のサロンであり、さっき佐藤さんがおっしゃったようなラボ的な要素もあって、結構出力機を打っていたり、自分たちでいろんなちょっとした印刷をつくったりというのも、非常に格安でできる環境を整えています。もともとはNPOの申請窓口でもあり、交流する場を設けて、今、年に1回、そのNPOの方々を20団体ぐらい募って、もっと市民に活動してもらおうと。一種のイベントなんですけど、それぞれ自分のところの活動のPRをし、市民が一種その活動を支える寄附文化を育てるというのを、今、名古屋市長さんが非常に主張されていることで、おっしゃったように、結構、いろんなNPOがまたそこで複数集うので、多分NPO間の交流もあれば、おっしゃったようなもしかしたらデザインみたいなものがすごく画一しているデザイナー的な団体もあれば、外国人の集まりとかもいっぱいあるんです。組み合わせると意外とおもしろいことができたりもするので、単独じゃなくて、複数の違うような、いわゆるバラエティーに富ん

だ人たちが何となくその場に来ると、いろいろ活動していて、お互いの活動を知って刺激を受けるというのは、やり方としてはあると思います。やっぱりそこで皆さん集まる場所というのが、一番ニーズが多くて、なかなか集まりたいんだけど、場所がないとかお金がかかる、それが無償で利用できる場所があるというのが、一番人が集いやすいですね。そのところは、行政が理想的な場所の確保というか、提供するという姿勢がいいんじゃないかと思いますけど。

○伊藤委員長　　そうですね。今のお三方のお話を聞いていると、人づくり部会みたいなのと、デザインラボみたいなものというのは一つにして、何かサロンのようなもので、市民が誰でも相談に行けたりできるような場所であるといいんだろうなということはちょっと感じました。一つにまとまって、多少お金を使ってもいいんじゃないかと思う次第ですけど、あと何も一からつくるという意味ではなくて、もともとプロジェクトの中にもありますが、桑名の中の象徴的な建物だったり、象徴的だけどうまく使われていないような物件というのものもあるわけですから、そういったところにサロンをうまく、再利用して活用していくというのも、結構考えられるんじゃないかなと思います。

NPOの話が、今、出たんですが、確かに我々委員というのは、桑名に生まれていたり、桑名にゆかりのあるということで選ばれてはおりますが、現実、じゃあ桑名の中のいろんな市民の活動だったり、いろんな団体の動きだったりということ把握できているかという、そんなにそこまではいけてないという部分があります。ただ委員だからといって勝手なことばかり言ったりやいいとも思っておりませんので、今後、我々ブランド委員としては、積極的にいろんな活動の集まりだとか、何かイベントだとか集会みたいなものがあって、予定が合えば、そういったところに各人が積極的に参加して行って、意見を聞いていきたいなどは思っております。事務局からは勉強会だとかそういった情報提供をしていただけるんですか。という話も聞いております。皆さん、積極的にお願いいたします。そして、そんな中で、きょうは各プロジェクトの、ある意味、先ほど事務局からはスーパーバイザーみたいな話もされておりましたが、主として担当していく方々なんていうのもイメージしていかなくてはいけないので、これは他人事ではなく、ちょっと自分たちがやると思っていくと、何せ中身がなくて、ほとんど今日の場合だとお題しか書いておりませんので、こんなことがもっと可能性としてはできるんじゃないかとか、ご意見いただければ幸いです。

諸戸副委員長、どうでしょうか。

○諸戸副委員　　やっぱりいろいろなプロジェクトが多分今後話をしていく中で、いろんなアイデアが出てくると思うんですけども、そこでやっぱりある程度優先順位をつけて、選別していかなきゃいけないということは必ず出てくるのかなというふうに思っています。都市デザインにしても食にしても歴史文化にしても、全部一遍にはできないことだと思っていますので、その中で何を優先的にやるかということは決めていかなきゃいけないなとは思っています。

○風間委員　　ほかにちょっと質問をぜひさせていただきたかったんですが、安藤さんか諸戸さんか、どなたでもいいんですけど、観光という点と食という点に関して、今、多分私が全然想像できないぐらいの方々が観光バスで毎週のように桑名に来ていらしていると聞かれますけど、皆さんが結構満足度が高い食とか、観光もそういった観光バスで来るケースが多いのか、やっぱり車が多いのかとか、多分どういうところで既にもう観光として実現できていることというのはどういうことなのか。

○伊藤委員長　　達成度みたいな。

○風間委員　　そうですね。前回おっしゃったように、駅前が玄関なので、もう少しウェルカム感とかあるといいなとか、ホスピタリティ感とおっしゃっていたので、東京にいと、これからオリンピックというのが、もうどれぐらい観光客が国内外から来るかという話が毎日のように聞かれるんですけど、桑名としてはどういった未来ビジョンというか、どういう観光という軸があるのかなというのをもう一度。

○安藤委員　　今、たくさん観光バスが来て云々というお話があるんですが、観光という面では、今年は非常にマイナスです。といいますのは、高速道路の割引がなくなりました。それから観光バスの制約が、国交省からバス会社に対してすごく厳しく締めつけがありまして、これが観光客にしわ寄せが行っているんです。これはどういうことかといいますと、料金、特に団体旅行じゃなくて、会員募集の旅行などが非常に組みづらくなっているんです。それで、お客様が駐車場に入り切れなくなる。渋滞があるということで、三重交通さんをお願いをして、観光バスで私どものナガシマスパーランドの駐車場からなばなの里へのパークアンドライドという方針をとっているんですが、実はむしろバス代が高騰しています。というのは、向こうを点呼して出てくる時間から、反対に帰って車庫にバスをとめるまでの料金、今までは実際の使っていた距離と時間だけで算出されていたものが、車庫を出発する前からの時間で計算をしなければいけないというふうに制度が変わりまして、そこからの料金で、観光という面では、観光バスで

の利用の観光にとっては非常にマイナスです。これは実は、今現在、私どももイルミネーションが始まったわけですが、昨年と比べても大幅に減っています。ただし、個人客はそんなには現状減ってないなというのはわかっていますけれども、やっぱり大変なんです。何が大変かといったら、土日の観光というのを目的に一般の方々が遊びに行かれるのが、非常に行きづらい環境にあると。ガソリン代の高どまり、それから高速道路の云々というのもありまして、観光という面では、そういう意味では非常にある面マイナスなんです。ですからこの辺で生き残っていかなきゃいけないので、それでもいいから来ていただく。だからこれが先ほどから語られている本物志向で、ある程度、そういう本物のいいものをつくっていかない限り、なかなか集客できないんじゃないかなというふうに思っております。私も休みのたびに仕事柄いろんなところへ行きますけれども、高速道路であまり距離があるとやめておこうか、下で走るとかというふうに本当になってしまいます。ざっくばらんに観光という面で、私ども、一番携わってますんで、実感していることをご報告させていただきました。

○風間委員　　例えば、今回、ここに取り組みとして上げられている、要はコンシェルジュプロジェクトみたいに、玄関口に来て誰に聞けばいい、桑名の魅力ってどうやってわかればいいのか、というのは、もちろんガイドブックを見て来られる方はすごく下調べをして、これが見たいと決まっている方だと思えます。私、前回もそうですし、京都のプロジェクトを通して桑名の魅力を考えるというふうな課題があったので、いろいろ見てたんですけど、近いからこそ、通りすがりの的にふらっと寄る、ふらっと来て、桑名の何かないかなという人って結構いるんじゃないかという仮説があって、団体ツアーのように組まれていて、申し込めば堪能できるという場合ももちろんあると思えますけど、そうじゃなくて何となく来たとか、私のように全然桑名を知らなかったという人がまずコンタクトできるのはどこなんだろうと。どんな人、例えば、人がもしいてくれるなら、どういう案内をしてもらえると、そういうふらっと来た人でも楽しめるのかみたいなのというのが、多分今の観光の状態と、これから向かいたい観光の状態とどういう差があるのかなというのはちょっと。

○安藤委員　　私も京都好きなんで時々行きますが、京都というのは非常にメジャーで、行かれる方はふらっと来て、じゃあそこでどこへ行くかと決めるという人は意外に少ないと思えます。今日は清水寺へ行くんだとか、哲学の道を歩くんだとかという目的を持って来られているので、意外に質問だとかそういうのはないんです。

例えば私どものお客様で、桑名へ行きたいんですけど、どこにどういったものがあるんでしょうかという質問から始まるんです。そういうのを全くご存じないんです。私どもも特に各ホテルですとか、それからなばなの里のフロント、入り口玄関、そういったところでは必ず説明できる人間がおります。中には、桑名検定ってありますよね。あれで1級受かっている人間だとかいろいろいましてご説明をできるんですけども、やっぱりお客様はほとんどの方が、どこへ行ったら何が聞けるだろうというのはわからないと思うんです。ですからその辺のところをもう少し工夫すれば、私どもには例えばこの桑名のマップですとか、三重県のパンフレットなどは一通りはそろえてありますので、そういったものをプレゼントすることも可能なんですけど、本当にどこへ行ったら、桑名は観光で食べているまちじゃないもんですから、なかなかないんでわからないと思うんです。ですからその辺をもうちょっと掘り下げていけば、この観光という問題も多少は解決できるんじゃないかなというふうには思っております。

○伊藤委員長　　今のお話を受けて、どういうところにコンシェルジュ的な機能を効果的に置いていくか、それといろんな人たちに聞いてもちゃんと答えられるような桑名市民の理解度というか、自分のところの市にこんなものがあるんだよというのが答えられるような、教育とってしまおうとちょっと大げさかもしれませんが、そこまでいけるといいなというのはちょっと感じました。みんなが市民全員で桑名を盛り上げていくというのは、コンシェルジュの人でもあるという意識があるといいですよ。

○黒田委員　　よくモデルコースとかつくる場合があるじゃないですか。私も知らない土地へ行っているいろいろ見たいんだけど、この時間内でこことここと自分が興味があるテーマがあるとしたら、ちょっと食を楽しみたいとか、例えば古い地籍をめぐるとか、一応、それに沿って少しアドバイスしてくるといって、じゃあこの3時間だったら、ここここはいかがですか、みたいに組み合わせてくれて、大体時間内に収まりますよ、みたいな、例えばアドバイスをしてくれたら、もうそれでかなりのものと言えますよね。

○安藤委員　　一番難しいのが、車で来ている人、それから観光バスで来ている人だけじゃないんです。例えば電車、バスを使ってきていただいた方、じゃあそこへどうやって行くかという交通のアクセスの問題、その辺も非常に難しい問題と思うんです。

長島町ではコミュニティバスが走っていますけれども、多分1日になばなの里へ来るのも2本ぐらいだと思うんです。これではなかなかお客様にちょっとご案内もできません。なかには頑張っている人もいますので、そういう人には積極的に声をかけて、

このバスはなかなか来ませんがご存じですか、というところから質問していかないと。ですから桑名市内でもそうじゃないんですか。

○市長 コミュニティバスを少しすると、民間のバスさんの営業を邪魔しないルートじゃないだめなんです。だから長島と桑名は非常に難しく、もう全ての国道はもう既に民間のバスが走っていますので、コミュニティバスが走れないんです。そういうような課題もあったりもします。

○伊藤委員長 そうであるなら、本来、ブランド推進会議の1回目で船という話もありましたが、ちょっとハードル高そうなので、自転車だとか、コミュニティサイクル的なものがあると、もうちょっと網羅できるのかなと思ってみたい。

○佐藤委員 あと、こういうイベントを絡めるんだったら、その期間はやっぱりそこがうまく走るのがいいかなと思っていて、瀬戸内芸術祭、あのときって島じゃないですか。だからもっとハードル高くて、だけど島の便が多分増発されたりとかして、ふだんあそこもあんまり人が、今はすごく増えていますけど、いるとは思えない、若者のすごいデザイン好きな人とか、岡山の小さな漁港にたくさんいて、みんなやっぱり交通機関で来るので、ひたすら船を待っているみたい。ほかの島に行くと、次のこの島に行くのにまた並んでいるみたいな状況が起きていて、すごいことになっているなと思ったんですけど、やっぱりこういうほんぱくみたいなことをやるときに、うまくラインをちゃんと絡めて整備して、もしかしたら民間のバス会社さんとも協働して、そのときはうまく通すみたいなことがあると、すごい一体感が持てるかなと。

あと、安藤さんの話を聞いていても、観光の話とか、柱として多分分けてあるんですけど、ガイドブックのことだったりとか、今のモデルルートみたいなこともそうなんですけど、全部やっぱりすごい連動してくるなと思ったので。だから何かうまくそこが、安藤さんのところでもどこがいいんですかと言われたときに、これをぱっと出せば、もうこれ見て何かおもしろそうと思えるみたいな、その人が動く動線にいろんなものを仕掛けていくということができるなとすごい一体感も出るし、さらにそこに民間のバス会社さんとかも協力してもらえると、まずはその期間からやって、すごいよかったねとなれば、そういう協力体制とかもできるのかなと思いました。

○伊藤委員長 まさに官民でプロジェクトの連携をしていかないと、これ、またそれぞれやってしまうと意味がなくなってしまう。横井会頭、いかがでしょう。

○横井委員 この都市デザイン、食、歴史文化、観光というテーマによって全て一く

くりにしてしまうのはいかなものかと思えるわけです。いろいろ町の特徴がござい
ますので、全ては当てはまらないかもしれませんが。諸戸さんの邸宅と桑名駅、歩いて
来られる非常に近距離なんですね。そうすると、つい、車で来るお客様が、駐車場がな
いから、なかなかそこに人が集まらないよ。あるいはバスの地域じゃないからというマ
イナスのことばかり言われるんですけども、実は歩いてこられるというのをもっと生
かせば、逆に集客をアップできる。今のお話のようにガソリン代が上がったからという
こともなくなるでしょうし、桑名駅から諸戸邸まで歩いてこられるそのプロセスがもう
少し楽しく歩いてこられるようなものをつくりたいという、実は観光プロジェクトの
先生のお話をお聞きして、なるほどと思った次第なんですけど。ですから桑名のオリジ
ナルの、物理的に無理なものは無理ですから、地域性をどう生かすかというふうな視点
で考えることも大事なんじゃないかなというふうに、今、具体的にはなかなか申せませ
んけど、そういった感じがします。

○伊藤委員長 私らのところじゃ歩く距離というのは500メートルであろうと2キ
ロだろうと、楽しければ歩いてしまっ、何キロだから歩けないというのはないと思う
んです。ということなら、目的地までどれだけ楽しくて退屈しない仕掛けがあったり、
ないしは休憩できるようなものがあれば、恐らく駅前から諸戸さんの邸宅までの距離と
いうのもさほどじゃなく感じることは、今だと確かにちょっと寂しい状況になっている
ので、非常に精神的距離が遠く感じてしまう、その辺もやはり改善すべきことだと思
うのと、駅前というところ、今、桑名駅を改修したり、裏側も、今、区画整理が進んで、早
くは桑名スイミングスクールなんか新しくなったりして、どんどん変わっていくと思
うので、その変わっていくハードの整備が、そのハードだけが先行してしまうと、また
昔の桑名に戻ってしまうので、何とかそういったブランド推進で考えているような点が
つながるだとか、ストーリーをつくっていくだとか、ところどころにそういったコンシ
ェルジュやサロンがあるだとか、こういった仕組みとハード形成がまさに連携してい
かないと、本当の意味でのブランドの本物の桑名にならないと。この辺は本当に部局総出
を上げてやってほしいなと、これは庁内に対しての私からの、ブランド推進委員として
全員の意見だととりたいたいと思います。

どうでしょう。時間も残すところわずかではありますが、確かにざくっとしているところ
もありますし、それぞれのプロジェクトというのは、それぞれだけではないという
のは重々承知もしておりますし、本当に委員会の中でも見ながらやっていくべきだとは

と思いますが、ただ来年度からはもう動くぞといったときに、常に常にこういう集まりを持って決裁をして決めていくのでは、なかなかスピーディーに2年後の本物博までたどり着けないのではないかと。ある程度頭を決めて、その方のマターの中やっていると、そんなことをイメージすると、我々委員も一つの使命をより重く感じることもできるのではないかと考えていて、こういうものというのは地元から原案を求めたほうがいいのか、挙手で勝手に好きなものをそのまま早い者勝ちしたほうがいいのかとか、特に決めているというわけではないんですが、食とかいうとどうですか。

○黒田委員 食はやっぱりイメージが逆に湧きやすいというか、それぞれ皆さんかなりこだわりもあるでしょうけど、結構、こんなこともできる、あんなこともできるというのはプランが出しやすい気はします。今回、このすき焼きというのが出たときに、多分、すき焼きは桑名だけじゃないんですけど、やっぱり桑名流みたいなすき焼きの食べ方、スタイルみたいなものをいろんなものを募るというのはすごく面白そうなので、前にも何かすき焼きサミットみたいなお話もちらっと出たりしたので、逆に全国からそういうすき焼きをテーマに人が集まったり、逆に桑名の人も桑名流すき焼きというのを皆さんにアピールするというイベント的な仕掛けは相当組めるんじゃないかと思っています。それがイベントからだんだん定番になっていくということもあるでしょうし、それぞれの飲食店の中で、いわゆるご当地のすき焼きみたいなメニューが定着していくということもあるでしょうし、これが観光の食の目玉として、してくというのがあるんで、恐らく何か仕掛けをしやすいのはまずこれかなという気はします。

○伊藤委員長 すき焼きというと、食べ物だけじゃなくて、具の中と、鍋と、その食べ方だとかつくり方だとか。

○黒田委員 つくり方とかいろんな流儀があるのを、逆にこれだけバリエーションがあるというのを集めてみて、それぞれやっぱり好きなすき焼きのスタイルがあるでしょうし、当然、すき焼きにかかわる器もあれば、空間もあればということがあるので、相当いろんな方々が参画しやすい、楽しめるテーマになると思います。

○伊藤委員長 クリスさんは結局桑名城から侍から歴史的なということをおっしゃっていたので、恐らく歴史文化というところに挙手されるのではないかと予測はされます。

観光というと、やはり今の安藤委員の現場の声みたいなのを考えていくと、現場の声を反映した方がリーディングしていってもらうのが本当によいのではないかと思うし、意見とともに、じゃあそれぞれの委員に、最後、一言ずついただきながら、よろしいで

すか。どなたからでもよろしいですから。

○黒田委員　　もし立候補していいんだったら、私は、食が、一番自分自身が興味を持てる点かなと思うので。

○伊藤委員長　　食と女性の感性ってすごい重要だと思うんで、とにかく女性が食べたいと思って並んでくれるようなものでないと。恐らく男性では、そういうのは。

○黒田委員　　いや、今、男性も非常にこだわりのタイプが多いですし、食材だけじゃなくて、食べ方というのはすごく今いろんなパターンが出てきて、びっくりするような食べ方が、今日もあさいちでやっていた鍋の、大根おろしをすって、それでフォームをつくって、いわゆるキャラクターみたいなかわいい鍋づくりというのがはやっています。ある人が発案して、それがネット上に広がって、ちょっと信じられないぐらい、何かシロクマ君とかをつくって、見た目、本当にキャラ弁みたいな感じなんです。えっと思えますよね、普通のスタンダードの鍋からしたら。でも、今、例えばそういうものがすごくおもしろくて、それが見てもらいたいから、どんどん新しい自分で鍋を考案してネットに載せるということもあって、すき焼きもすごいとんでもない違う発想は出る。

○伊藤委員長　　クックパッドとかでも載せれば、みんな、その桑名のすき焼きまねしちゃうみたいな。

○黒田委員　　それと、すき焼きってやっぱり海外でも、ある意味、日本のすき焼きというのはすごい認知されているんだけど、ちょっとまたおもしろい海外バージョンみたいなこともできると思うので、これは相当アピールできる要素かなと思いますけど。

○伊藤委員長　　すき焼きは黒田委員で。専門委員の方々は、どちらかという市民の巻き込みだとか、若手の育成だとか、全体の育成のほうに力を入れていただくという形でよろしいですか。

○諸戸副委員長　　私も、もちろん歴史文化ということなのかなと。財団をやっているという関係上もあるんですけども、とってはいます。やっぱりこれからは優先順位をどうつけて、より具体的に形にしていくかということがすごく重要になってくると思うので、スピーディーにやるべきなのかなというふうには思っていますけれど。結局、歴史文化は形になるのがすごい時間がかかるなと逆に思っているんです。すぐ何かができるわけではないものなので、むしろもうあるところにどうやって来ていただくかですとか、そちら側の話がちょっと主なのかなというような気はしています。

○伊藤委員長　　先回到諸戸副委員長から、桑名の時代をどこで切るかという質問に対

して私自身も考えたんですが、確かに本多忠勝で切ると、戦国武将から江戸にかけてになってしまうし、それこそ諸戸邸のほうから行くと、明治から大正に向けてという形になってしまう。どの辺で切っていくかというのがすごく難しいなと思ったり、歴史が混在しているからこそ、一つの何か方向性に向けていくというのは、これはブランドとしてきちりと定義して取り組んでいくべきだと思います。ぜひともお願いします。

まち並みがそろってくるだけでも違うとか、何か簡単なデザインルールだけでもしてもらえばかなり違ってくるのになとか、何かやれることというのは、本当に小さいことから始めればいろんなものがあるんじゃないかなと思いました。

○横井委員　　私は飲食のことをやっている関係で、食に関することが、一番させていただけることなんじゃないかと思います。若干、すき焼きというところに抵抗は感じておまして、いろんな形のすき焼きもお肉、牛というふうに限定する必要はないわけですよ。いろんなすき焼きのパターンがあると思うんです。今の大根おろしのお話も含めていろいろ参考になることもたくさんお聞かせ願えると思いますので、その取り組みに入れていただきたいと思います。

○伊藤委員長　　すき焼きのしめのうどんというのは。

○横井委員　　もちろん。

○伊藤委員長　　おおよそ今日の議題としては、今の意見も加味したり、ロゴマークの方向性、かなりブランド骨子の方向性まで実は見えてきたんではないかなと実感しております。その辺を踏まえて、もう一回、多分事務局のほうでブラッシュアップしていただいて、あとそれぞれの委員の皆さんの意見も聞きながら、来年度の準備をどんどんしていけばいいなと思います。

委員の皆様にはぜひとも時間を割いていただいて、桑名のいろんな方々とも触れ合えるような場所に出かけていただければいいなと思います。

おおむねこんな形で今日の議題は終了させていただこうと思いますが、最後、市長から感想を一言いただければ。

○市長　　今日は本当に長時間にわたりまして熱心にご審議いただきましてありがとうございました。先ほど、委員長がおっしゃっていただきましたけれども、一番骨になる部分が何となく見えたような会でもありましたし、またそれに加えて、具体的な部分でも幾つか、こういう方々がこのプロジェクトをやっていっていただけるんだなということも見えてきて、何となくぼんやりした部分が少しやっこの3回目にしてついに見え

てきた部分もあるのかなというふうに思っています。

皆さんにもさらなるご協力をお願いしたいところでもございますし、またそれ以上に、恐らく市民の方にこのプロジェクトが自分事だと思っていただくというような取り組みもしっかりしていかなくちゃいけないなと我々も考えているところであります。

28年に桑名ほんぱくを開催できるようになるのか、桑名本物力こそ、みんなが認知をして、みんなで頑張る町を目標に置かせていただいて、ますます皆さんのご協力のほど、よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

○伊藤委員長 では、事務局から次回からの予定の発言があるんですね。

○ブランド推進課 次回の開催についてですが、次回4回目ということで、本日、リーディングプロジェクト等、携わっていただく委員の方もお決めいただいたということで、個々に調整もさせていただけるというふうにはちょっと思っております。次回、今年度あと1回で、1月か3月かというふうに当初は思っておりましたけれども、ご都合的にどうかというところなんです。

○伊藤委員長 おおむね開催時期であれば、次回は3月の終わりにと考えるとよろしいですか。3月の終わりにというのは、私自身もそうしたほうがいいんじゃないかという意思もあります。次回は大体骨格、予算がもう決まっていますから、今年度の終わりと来年度に向けたキックオフを3月の終わりにやっしまえば、もう4月1日からずっと走り出せますから、それぐらいのスケジュール感ではどうかなと思っております。

長時間にわたってありがとうございました。これで第3回ブランド推進委員会を終了させていただきます。

ありがとうございました。(拍手)

(閉 会)